

---

# カクレンヴォ

鬼灯碑露

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カクレンヴォ

### 【Nコード】

N3457Z

### 【作者名】

鬼灯碑露

### 【あらすじ】

悪魔とのかくれんぼに巻き込まれた斎藤が7日間逃げ続けるストーリー  
斎藤と仲間たちは逃げ切ることができるのか

第一：いち・…にーい・…さーん・…（前書き）

いつもは何もない一日。

いつものように学校へ行つて。いつものように授業を受けて。いつものように遊んで。いつものように過ごす。ただそれだけだった。ただ今日からはちがかった。あの出来事から。

第一：いち……にーい……さーん……

俺は斎藤 拓真。

中学校一年生。

あの出来事からはいつもの様子が変わってしまった。

平成22年12月

あれはクリスマスシーズンのことだった。

まだ小学生だった頃に、地域のイルミネーションを見に行った。

「綺麗だな斎藤。」

こいつは松木 雄介。同級生。

いつも一緒に遊んでいる親友。

「ああ、毎年のように綺麗だな。」

「俺たち、これを毎年見に来て、もうこんなに大きくなったんだな。」

「ああ。そうだな。」

毎年のように見に行った。ただ、それだけだった。

だが……。

「よし。もう帰るか。」

「そうだな。帰るか。」

すると、かすかに聞こえてきた。

「……かくれんぼしよ……。ねえ……。やろつよ……。」

「。」

「今なんか聞こえたか？」

「ああ。聞こえた。」

「ねえ……。やろつよ……。もしやらなければ……。」

「なんだ！頭に響く痛い。」

「一緒に連れてってやる。」

「うわああああ……。」

「……。」

「ここはどこなんだ？」

「さあどこだろ？」

すると、違う声がそこから聞こえてきた。

「怖いよ。怖いよ。」

そこには誰かいたのだ。

「誰だ？誰なんだ？」

「きゃあー。」

「落ち着いて。落ち着いて。俺は斎藤 拓真。でそっちが松木 祐介。」

「ヨロシク。」

「なんだ。人か。私は菊池 夏美。中学生。」

「ここはどこなんだ？」

「わからない。私もさつき連れてこられた。」

「かくれんぼ……。始めるよ……。捕まったら……。君たちの負け。」

「いーち……。にーい……。さーん……。」

「やべえよ。やべえよ。これって逃げたほうがいいんじゃないか？」

「逃げ。逃げ。」

「うん。」

「しーち……。はーち……。きゆう……。じゆう。」

もういいかい……。じゃあいくよ。

キヤハハハハハハハハハハハハハハハハ！……。」

こうして始まった死のゲーム

何も分からずただ逃げ回るそれだけ……。

第二…みいつけた…（前書き）

主人公 斎藤 拓真 中学一年生

松木 雄介 同じく一年

菊池 夏美 中学生



「おう。」「うん。急いじう」

このまま逃げ続けた……。

松木はあることに気づいた。

「ここってさ、もしか現実世界じゃないんじゃないか？」

「え？なんで？息もしているし、このように学校もあるじゃん。」

「いや、さつきから疑問におもっていたけど、全部の時計が、” 0 2:00 ”で終わっているんだよ。」

「そっいえばそうね。風景も全く変わらないし、当たりに人の気配もない。」

「やっぱり……。」

ピンポンパーンポーン

新しく入りました新入りです……。

蒼井 友美 理科室。

ピンポンパーンポーン

「新入り？どういうことだ。」

「行ってみよう理科室。」

タタタタタタタ……。

「怖い。怖いよ。」

「どこにいるんだ?!」

「きゃあ！誰?」

「キャハハ……みいつけた！」

今度は……捕まえてやる!……!



「事情はあとで説明する。今すぐ逃げる。」

「無駄だよ……君はもう死んだ……。」

「ぎゃあああああああああ!!!!!!」

第三…ばいばい… (前書き)

主人公 斎藤 拓真 中学一年生

松木 雄介 同じく一年

菊池 夏美 中学生

### 第三…ばいばい…

「きゃあああああああああ!!!!!!」

あれは一瞬の出来事だった。

松木の首から上が…。

…消えたのだ。

「まつきいいいい!!!」

俺は思った。

これは夢だ。こんなことは絶対にないと。

だが、これは本当に起こっていた。

本物の殺し屋のゲームだったのだ。

「キャハハハハハハ!!!!!!」

…松木 雄介 死

残り2名

「おい逃げるぞ、早く立つんだ。」

「でも、あの子が。」

「現実を認めるしかない。松来を犠牲にして、俺たちも死ぬ気か。」  
俺は無理やりにも彼女を連れて逃げた。

ハアハアハアハアハアハア…。

「ここまでくれば大丈夫だろ。」

まだ現実を飲み込めない、俺たち。

「これからどうなるんだろう。」

「しらねえよ。とにかく逃げ続けるだけだろ。」

「そうだけど、だけど。」

「もう思い出させるな！いつも一緒にいたやつが  
あんな簡単に死んだんだ。おれだってまだ状況を飲み込めねえよ。」

ピンポンパンポン

新しく入りました新入りです……。

岡本 友里 広場

ピンポンパンポン

「また来た。いそいでいくぞ。見つかる前に。」

タタタタタタタタ……。

「どこにいるの？返事して。」

「ここです。ここ。ここ。」

「無事だったか。俺は斎藤 拓真。」

「それで私が菊池 夏美。」

「私は岡本 友里 中学2年生」

年上だった。身長は俺よりも小さいが、  
体型もスラッとしていて、

夏美よりははるかに大人に見えた。

ピンポンパンポン

新入りです……。

「またか。次は誰だ！」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3457z/>

---

カクレンヴォ

2011年12月15日23時52分発行